監修　高木市之助　久松潛一
山岸德平　小島吉雄

源氏物語 六

池田龜鑑校註

監修　高木市之助　久松潜一
山岸德平　小島吉雄

源氏物語

六

池田龜鑑校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

池田亀鑑（いけだきかん）
明治二十九年鳥取縣生。昭和三十一年歿。東京大學國文學科卒業。東京大學教授。主著―宮廷女流日記文學、古典の批判的處置に關する研究、源氏物語大成等。

日本古典全書
「源氏物語」六　池田亀鑑校註
昭和二十九年十二月十五日初版發行
昭和四十九年九月三十日第十六刷發行
印刷所　明善印刷株式會社
發行所　朝日新聞社（東京都千代田區有樂町・大阪市北區中之島・北九州市小倉北區砂津・名古屋市中區榮）
定價　八五〇圓

1391-210006-0042

目次

凡例……三
系圖……八
本文
總角……一五
一、八宮一周忌の準備、薫宇治を訪ふ、阿闍梨も參上……一五
二、薫名香の絲に託して大君に心中を訴ふ、大君拒む……一六
三、薫匂宮を推薦、大君獨身の意志を告げ中君の將來を憂ふ……一六
四、薫辯と懇談、姫君達に關し心情を訴ふ……一八
五、薫宇治に泊る、大君と物越しに對面……二三
六、大君對面半ばにして奥に入らんとす薫追ふ……二三
七、大君薫の行動を恨む、薫なほ綿々として意中を泣訴す……二四
八、薫强ひて思を紛らす、大君終夜父宮を思うて悲しむ……二五
九、宇治の曉、薫大君と共に明け行く空

を眺む……二六
一〇、曉の山莊の風情、薫名殘を惜み、大君と歌を唱和……二七
一一、大君終夜煩悶、妹を薫に與へんと決意す……二八
一二、薫の移香、大君妹に恥ぢてなやみくらす……二九
一三、一周忌果つ、大君妹をいつくしむ……三〇
一四、薫宇治を訪ふ、大君對面を拒む……三一
一五、侍女達大君を薫にあはさんとす……三一
一六、大君、中君に心情を打明け薫との結婚を勸む……三一
一七、侍女等しりきに大君に勸む、大君拒み煩悶す……三三
一八、薫悠揚せまらず、侍女等差出口をなす……三四
一九、大君辨に衷情を訴へ薫へのとりなしを依頼……三五
二〇、辨大君を諫め、猶薫との結婚を勸む……三五
二一、大君不安のままに中君と共に臥す……三七
二二、薫大君の許に忍ばんとす、辨等心用意す……三七
二三、薫姉妹の室に忍び入る、大君逃る……三八
二四、薫中君と氣付く、語ひて夜を明す……三九
二五、老女等大君の噂、薫との結婚を願ふ……三九
二六、夜明く、薫中君に後瀬を契りて出づ……四〇
二七、大君姿を現し、中君をいとほしむ……四一
二八、薫辨に大君の無情を訴へて出づ……四一
二九、薫大君片枝の紅葉につけて和歌贈答……四三
三〇、薫大君の意中を忖度しわが思を反省……四三
三一、薫匂宮を訪ひ宇治の事につき談合す……四四
三二、匂宮薫に宇治への手引を懇願……四四
三三、薫思案の上中君を匂宮に讓らんとす……四五
三四、薫匂宮を宇治に案内し自ら先づ姫君達に消息す……四六
三五、薫辨の尼に中君への手引を依頼……四七
三六、大君薫に對面、自らの意中を訴ふ……四七
三七、薫大君に事實を告ぐ、大君恨む……四八
三八、薫切々と心情を訴ふ、大君なだめて危機を脱す……四九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

三九、一夜空しく明け薫大君と別れて出づ、老女等不審……五一
四〇、匂宮薫とともに早朝六條院に歸著す……五一
四一、匂宮より後朝の文、大君强ひて中君に返事せしむ……五二
四二、匂宮再び薫を誘ふ、薫斷る……五三
四三、大君萬事を諦觀、準備して匂宮の來るを待つ……五三
四四、中君悲嘆、大君ねんごろに慰めきかす……五四
四五、匂宮中君をいとしむ、中君なほ打解けず……五五
四六、結婚三日の夜、大君自ら祝の餅を用意す……五五
四七、薫より來信、三日の夜の衣料に添へて歌あり……五六
四八、大君躊躇の末返歌、薫待ちうけてこれを見る……五七
四九、匂宮參內、母中宮の諫言により宇治へ赴くを諦む……五七
五〇、薫參上、匂宮に宇治へ赴くべき事を勸む……五八
五一、中宮薫に向ひ匂宮の花心をなげく……五九
五二、薫女一宮を思ふ、猶大君以外の女には動されず……五九
五三、匂宮來訪中君に滿足す老女等大君を非難……六〇
五四、大君老女達に比しひそかに我身の衰へを歎く……六一
五五、匂宮今後の疎遠を豫告して諒解を求む、中君煩悶……六二
五六、宇治山莊の黎明、匂宮中君の孤愁をかなしむ……六二
五七、中君、匂宮にひかれゆく自分をかへりみる……六三
五八、匂宮名殘を惜みつつ宇治の山莊を出づ……六四
五九、匂宮のあさけの容姿、中君侍女等の心を動かす……六四
六〇、匂宮外出不可能、度重なる文をみる

大君の心情……六四
六一、薫姫君達の心を察し、匂宮の眞意をひそかに探る……六五
六二、九月十日の夕暮薫匂宮を訪れ、宇治訪問を促す……六五
六三、薫匂宮と共に宇治へ赴く、姫君達に同情……六六
六四、宇治の歡迎、大君同行の薫になほ心ひかる……六六
六五、大君薫と物越に對面、なほ打解けじと心に誓ふ……六七
六六、薫直接の對面を迫る、大君きかず夜を明す……六七
六七、匂宮中君を京に移すべく思案……六八
六八、薫匂宮と中君とに同情、二人の爲に助力す……六九
六九、更衣の用意、薫姫君達の爲にその世話をす……七〇
七〇、匂宮薫の勸により宇治に紅葉狩を思立つ……七〇
七一、薫山莊に申送り、匂宮一行歡迎の準備をすすむ……七〇
七二、匂宮一行の花やかなる逍遙、山莊より望まる……七一
七三、一行作文に興ず、匂宮中君を思ひ心落着かず……七一
七四、内裏より中宮の特使隨身數多率ゐて來る匂宮・薫興さむ……七二
七五、匂宮中君に文のみ送る中君返事せず煩悶……七二
七六、匂宮山莊を遠望して情緒亂る……七三
七七、供の君達姫君等を思ひやり、和歌を詠み交す……七四
七八、匂宮一行過ぎ去る、大君宮の無情を歎く……七五
七九、中君悲嘆、大君ふかく同情す……七六
八〇、大君中君を見るにつけわが前途を悲觀七
八一、匂宮宇治へと志せど帝中宮の反對により果さず……七六
八二、薫、匂宮に中君を仲介せしを後悔し

て惱む……七八
八三、匂宮煩悶、中宮きびしく諫め切に自重をすすむ……七九
八四、匂宮妹の女一宮を訪ひ在五物語繪卷に託して心中を告ぐ……七九
八五、女一宮答へず、匂宮侍女達に紛れて宇治に無音……八一
八六、姫君達匂宮を待ちわぶ、薫大君の不例を見舞ふ……八一
八七、大君匂宮の無情を悲しむ、薫なぐさめ勵ます……八二
八八、夜に入り薫なほ大君の邊りを去らず看護……八三
八九、翌朝大君苦痛を訴ふ、薫都へ移したき旨を述ぶ……八三
九〇、大君薫の供人より匂宮六の君結婚の噂をきく……八四
九一、大君中君のうたたね姿を見、亡き父宮を追慕……八五
九二、大君時雨の夕空にむかひ過去未來を思ふ……八六
九三、中君ひる寢の夢に故父宮を見て姉君に語る……八六
九四、匂宮より來信、大君中君に勸めて讀ましむ……八七
九五、大君匂宮の態度を怨む、中君宮を信ぜんと努む……八七
九六、匂宮多忙に紛れて訪はずながらも中君を忘れず……八八
九七、薫匂宮の不實に失望、多忙中敢て宇治を訪ふ……八九
九八、薫辨より、大君重態の由を聞き、修法の世話をす……八九
九九、夕暗の中に薫大君の病床を見守る、尊き讀經の聲……九〇
一〇〇、大君の信頼、薫その手をとりて慟哭す……九一
一〇一、大君敢て薫を避けず、薫徹宵看護……九二
一〇二、阿闍梨大君を見舞ひ八宮の夢を語る、大君煩悶……九二

一〇三、薫常不輕に託し中君に心情を告ぐ、辨代りて返歌……九四
一〇四、薫大君のために祈禱せしむ、その効驗なし……九五
一〇五、大君前途を悲觀し受戒を望む、諸人きかず……九五
一〇六、知人薫を見舞ふ、家人祈禱……九六
一〇七、豐明の頃、薫京を思ふ、風雪終日やまず……九六
一〇八、薫大君に近づき衷情を訴ふ、大君わづかに答ふ……九七
一〇九、大君衰弱、なほ美し薫あきらめ難く見守る……九七
一一〇、大君中君の事につき薫を恨む、薫辯解……九八
一一一、大君息絶ゆ、中君後を追はんと悲しむ……九九
一一二、薫灯をかかげて大君の死顏を見る、葬送……一〇〇
一一三、中君悲歎に沈む、匂宮の弔問にも思ふ事多し……一〇〇
一一四、薫悲歎のあまり宇治に籠りて出でず、弔問多し……一〇一
一一五、薫喪服になり得ぬ身を歎く、侍女等悲泣……一〇一
一一六、薫中君を慰む、中君身を憂へて對面せず……一〇二
一一七、雪後の月明、薫鐘の音に故人を追慕す……一〇三
一一八、氷雪の山は日光にさゆ、薫故人を戀ふ……一〇三
一一九、薫侍女等を呼び故人の思ひ出を語らしむ……一〇三
一二〇、深更匂宮狩衣にやつれて來訪、薫隱る……一〇四
一二一、中君對面を欲せず、物越しに宮の辨解をきく……一〇五
一二二、匂宮宿泊、薫宮のためとりなす、中君きかず……一〇五
一二三、匂宮言葉を盡して中君を慰む、中君

拒み通す……一〇六
一二四、匂宮薫を見舞ふ、中君の不安さに京に移さんとす……一〇七
一二五、年末薫心を殘して歸京、人々慕ひなげく……一〇八
一二六、匂宮より來信、中君を京に迎ふべき意を告ぐ……一〇九

早蕨……一一一

一、春日遲々中君故人を戀うて涙の日をおくる……一一一
二、山の阿闍梨蕨など贈り中君の傷心を慰む……一一一
三、宇治の人々大君を戀ふるにつけ薫の好意を思ふ……一一二
四、薫匂宮を訪問、宮梅花につけ薫を諷す……一一三
五、薫匂宮に大君の追憶を語りて泣く……一一四
六、懇談深更に及ぶ、薫匂宮の友情に憂さを遣る……一一五
七、匂宮京に中君を移すべき事を告ぐ……一一五
八、中君上京の決心つかず思ひわづらふ……一一六
九、上京の日近づく、中君喪服を脱ぐ……一一七
一〇、中君上京に寄する薫の好意宇治の人人感激す……一一七
一一、上京の前日早朝薫中君を訪ひ、大君を偲ぶ……一一八
一二、薫中君に面會を求む、中君侍女等の勸にて對面……一一八
一三、中君上京の苦衷を訴ふ薫悔いつつ己を抑ふ……一一九
一四、薫中君庭前の紅梅に懷舊、和歌を唱和……一二〇
一五、薫、召使自領の人々に山莊の後事を託す……一二一
一六、薫辨の尼を呼びねんごろに慰む……一二一
一七、薫辨の尼と世の無常を語る、心を殘

して歸京……一三三
一八、中君辨に暫しの別を告けて懇ろに慰む……一三三
一九、中君上京の準備成る、周到なる薫の配慮……一三四
二〇、侍女等上京に滿悅す、中君の孤愁……一三五
二一、道中七日の月出づ、中君悲傷……一三六
二二、中君二條院に到著、匂宮心とめて迎ふ……一三六
二三、薫、匂宮夫妻の噂を聞き、心平かならず……一三七
二四、夕霧、中君の上京に心外、六の君裳著……一三七
二五、夕霧薫を婿にせんと欲す、薫心進まず……一三八
二六、薫二條院に匂宮を訪ふ、宮自邸に落著く……一三八
二七、薫中君に挨拶、中君昔人を思ふ……一三九
二八、匂宮出でんとして中君になほ不安を感ず……一三〇

宿木……一三二

一、藤壺女御帝と共に女二宮を愛育……一三三
二、藤壺女御女二宮裳著の用意に奔走中逝去……一三三
三、帝女二宮を鍾愛、ただ後見なきを不安とす……一三三
四、帝薫の人物を見込み女二宮を託せんとす……一三四
五、帝清涼殿に薫を召し碁の相手を命じて興ず……一三五
六、帝先づ一敗、女二宮を菊花に譬へ薫と唱和……一三六
七、薫叡慮を知りつつ女二宮との結婚に心進まず……一三七
八、夕霧六の君の婿に薫を諦め匂宮を志す……一三七
九、明石中宮夕霧の懇請を匂宮に傳ふ、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

匂宮承引……一三八
一〇、薫女二宮との結婚を承諾、なほ亡き大君を戀ふ……一三九
一一、匂宮六の君の婚儀決定す、中君の不安と後悔……一四〇
一二、中君故大君の信念を思ひ、恥ぢ且なげく……一四一
一三、匂宮一層中君に深切、中君懷姙、宮知らず……一四二
一四、中君他より匂宮六の君婚儀の日を聞知る……一四三
一五、薫中君に同情匂宮を非難、猶大君の遺言を思ふ……一四三
一六、薫女に對する從來の方針に比し今の自己を反省……一四五
一七、薫中君を訪はんとし、朝顏の花を手折る……一四六
一八、早朝の六條院、侍女等薫の來訪を歡び迎ふ……一四七
一九、薫中君の孤悲を見舞ひ、懇ろに教へなぐさむ……一四八
二〇、薫朝顏の花に託し、中君に意中を仄めかす……一四九
二一、薫宇治の荒廢を語り、源氏薨後の六條院と比較……一五〇
二二、中君薫に宇治へ同行を依頼、薫これをとどむ……一五一
二三、薫、匂宮不在中訪問の言譯を言づけて退出……一五二
二四、薫中君を諦めずなほ精進、母女三宮の不安……一五三
二五、夕霧婚禮の用意を調へ匂宮の入來を促す……一五四
二六、匂宮中君に同情、夕霧邸に赴くを躊躇す……一五五
二七、匂宮夕霧の迎を受け、中君を慰めて出づ……一五五
二八、中君わが身の上を佗ぶ、夜更けて月荒涼……一五六
二九、侍女等中君を憂へて種々取沙汰し合

ふ……一五七
三〇、匂宮の花婿ぶり、六の君にも満足……一五八
三一、匂宮歸邸後朝の文を書く、侍女等の陰口……一五八
三二、匂宮中君を見舞ひ、その美に打たる……一五九
三三、中君耐へかねて泣く、匂宮詞を盡して慰む……一六〇
三四、六の君の返書、匂宮中君の前にて披見……一六二
三五、世人寧ろ中君を羨む、中君運命を諦觀……一六二
三六、匂宮歎きつつ出づ、中君蜩の聲に宇治を戀ふ……一六三
三七、匂宮六の君の許へ赴く、中君一夜煩悶……一六四
三八、夕霧薫を誘ひて内裏を退出……一六五
三九、新婚第三夜の夕霧邸、匂宮直ぐには出席せず……一六五
四〇、匂宮やうやく出席、酒宴賑ひ、人々歡をつくす……一六六
四一、薫の供人の愚痴、薫聞きつけて興を覺ゆ……一六七
四二、薫我身を匂宮に比し得意、しかも大君を忘れず……一六七
四三、按察の君との後朝、侍女等薫を慕ふ……一六八
四四、六の君の盛の容姿、匂宮強く心を惹かる……一六九
四五、中君匂宮の夜離を歎く、宇治に赴かんとし薫に消息……一七〇
四六、薫中君の文を繰返し見る、几帳面なる返書……一七一
四七、薫翌夕中君を訪ふ、めでたき容姿と薫香……一七二
四八、中君薫を簾中に通す、薫心を鎮めて懇談……一七三
四九、中君忍びて宇治に同行を依頼、薫その袖を捉ふ……一七四
五〇、薫中君に迫り縷々と苦衷を訴ふ、中君泣く……一七五
五一、侍女等退く、薫過去を悔ゆれど強ひ

て自制……一七七
五二、早曉歸邸反省しつつも猶戀情にくるしむ……一七七
五三、早朝薫より來信、中君簡單に返書……一七八
五四、薫中君への情炎に苦しみ、匂宮をうらやむ……一七九
五五、匂宮久々に中君を見舞ひその可憐さに強く惹かる……一八〇
五六、匂宮中君にのこる薫の移香を怪しむ……一八一
五七、匂宮薫との間を猜疑、中君を責め且慰む……一八二
五八、匂宮猶二人の間を疑ひ薫の文など搜す……一八三
五九、薫女三宮に依賴し、中君の侍女等に衣料を贈る……一八五
六〇、匂宮薫それぞれの中君に對する志の比較……一八六
六一、薫自省しつつ猶中君を諦めず、中君の煩悶……一八八
六二、薫又中君を訪ふ、夜居の僧の座に招じ對面……一八九
六三、中君薫を制し、侍女を呼びて看護せしむ……一九〇
六四、薫懇ろに誠意を披瀝、中君信賴の情を傳ふ……一九一
六五、薫山寺の本尊に大君の人形を造る希望を述ぶ……一九二
六六、中君異母妹浮舟の事を語り出づ……一九四
六七、薫浮舟を大君の代りに見んとす、中君同意……一九五
六八、中君奥に入る、薫煩悶しつつも自制辭去……一九六
六九、薫愛執と理性の葛藤に惱み一夜を明かす……一九六
七〇、薫宇治に赴き辨に對面大君を偲びて泣く……一九七
七一、薫寢殿を寺に改むべき旨を阿闍梨と談合……一九八
七二、薫辨と懇談、辨亡き柏木大君の事など語る……二〇〇

七三、辨浮舟の素性につき詳細にものがたる……二〇二
七四、薫浮舟を見んと望み、辨に傳言を依頼す……二〇三
七五、辨等薫の好意を感謝す、薫辨宿木の歌の唱和……二〇四
七六、薫より紅葉につけて眞面目なる文、中君返書……二〇四
七七、匂宮尾花に託し嫉妬の情を示す、中君返歌……二〇六
七八、匂宮中君に勸め琵琶箏の合奏、侍女等滿悅す……二〇七
七九、夕霧正裝の儘宮を迎へに來邸、中君我身を悲觀……二〇八
八〇、中君出產間近く患ふ、諸方より見舞あり……二一〇
八一、女二宮の裳著近づく、薫中君の上のみ憂慮……二一〇
八二、薫權大納言兼右大將に昇進、慶奏と司饗……二一一
八三、中君若君誕生、所々よりの產養善美を盡す……二一二
八四、女二宮裳著、薫との結婚に對する世評……二一三
八五、女二宮薫新婚第三夜の儀……二一四
八六、薫女二宮を自邸に迎へんと計畫、女二宮悅ぶ……二一五
八七、帝の親心女三宮に依頼の消息を遣す、薫猶憂鬱……二一五
八八、薫中君の若君五十日の祝に懇ろなる準備……二一六
八九、薫來訪、中君その眞意を解し、亡き大君を思ふ……二一六
九〇、薫若君に對面、亡き大君を思ひて羨望……二一七
九一、藤壺にて藤花の宴、管絃の遊妙を極む……二一八
九二、酒宴盛大、薫天盃を賜り御禮の拜舞をなす……二一〇
九三、按察大納言薫の幸運を羨望心中憤懣……二一〇

九四、祝賀の和歌奏上、一部摘記……三二
九五、深更音樂の遊、帝女二宮より祿を賜ふ……三三
九六、女二宮薫の三條の宮に移る、盛なる送迎……三三
九七、薫女二宮の美しさに滿足、猶大君を忘れず……三三
九八、薫宇治に赴き、長谷詣の浮舟一行に遭ふ……三四
九九、薫供人に口止めし、襖の孔よりのぞく……三四
一〇〇、垣間見る浮舟の容姿の可憐さ……三五
一〇一、侍女等香をめで物など食ふ、薫覗き止めず……三六
一〇二、辨浮舟を見舞ふ、薫浮舟に大君の面影を發見……三八
一〇三、浮舟を垣間見て薫の歡喜、辨奥に入る……三九
一〇四、薫辨を召し浮舟の様子を問ひ、傳言を依頼……三〇

東屋……三三

一、薫浮舟を望みつつ躊躇、母北方また遠慮す……三三
二、母北方連子の浮舟を溺愛し良緣に腐心……三三
三、常陸守の成上り者的生活、左近少將求婚……三三
四、母北方少將との婚禮用意、守實女の爲に奔命す……三四
五、北方浮舟が守の實子ならぬ由を告白、少將立腹……三六
六、少將守との緣組を欲し實女に求婚せんとす……三八
七、媒守に少將の意を傳ふ、守滿悅實女を婚せんとす……三八
八、媒少將の人物の將來有望の旨を守に傳ふ……三四

九、守感激、財を盡して少將の後見たらんと約す……二四二
一〇、少將媒の言に乘り守の意に從はんと約す……二四三
一一、北方婚禮の用意に忙殺、守より少將の破約を聞く……二四四
一二、北方憤慨、乳母と相擁して浮舟の不運を歎く……二四六
一三、守浮舟の室にて實女婚儀の用意す、北方無關心……二四八
一四、北方文にて中君に浮舟庇護を依頼、中君思案す……二四九
一五、中君大輔の勸に從ひその申出を容る、母娘悅ぶ……二五〇
一六、守邸内を擧げて少將主從の歡待に努む……二五一
一七、北方浮舟を伴ひ中君邸に赴く、二三日逗留……二五一
一八、北方隙見し匂宮夫妻の豪華さにおどろく……二五三
一九、匂宮夫妻を見、浮舟の將來に對する北方の希望……二五三
二〇、匂宮に比較されたる少將、北方の輕蔑……二五四
二一、北方中君と懇談、薫の人柄を賞讃し合ふ……二五五
二二、浮舟の不運をかこち中君の庇護を懇願……二五七
二三、薫中君を訪ふ、母北方覗き見て又感歎……二五八
二四、薫中君に心中を仄かす、中君浮舟を勸む……二六〇
二五、北方薫の美に讃歎、侍女等の賞讃を聞く……二六一
二六、中君北方に薫の意向を仄かす、北方賴る……二六三
二七、翌朝守より迎の車、北方歸邸せんとす……二六四
二八、匂宮歸邸、北方の車を見咎め中君を疑ふ……二六四

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook